



特集

元祖「打・投・極」

日本拳法

日本拳法は、柔道と空手の両方を学んだ始祖・澤山宗梅氏が昭和の初めに創始した武道である。その特徴は、突・打・蹴といった打撃技だけでなく、投げ、関節技も含んでいる点にある。

また、基本稽古や型稽古を主とした伝統空手とは対照的に、防具を着用して実際に組手を行う中で、実戦的な強さを身につけていくという特徴も併せ持つ。

この技術・稽古体系が優れていることは、この武道を修得した後、その技術を応用して、ボクシングやキックボクシングに転向した選手たちが日本王者・世界王者となっていることから実証されていると言えよう。

この日本拳法はこれまで、創始者・澤山宗梅氏が作った、関西系の日本拳法会と、その流れを汲む関東系の日本拳法協会に分かれて発展してきたが、今回は本誌史上初めて、関西系の日本拳法を特集する。

技術編では、創始者・澤山宗梅氏が日本拳法の普及・指導を始めた日本拳法発祥の地・関西大学において拳法部を指導し、自身も日本拳法会の全日本選手権を四度、国際大会を三度制した伝説の王者、雑古哲夫七段に解説してもらった。

特に波動拳は、雑古七段が「最高の突き」と語る突であり、必見である。

(文中敬称略)